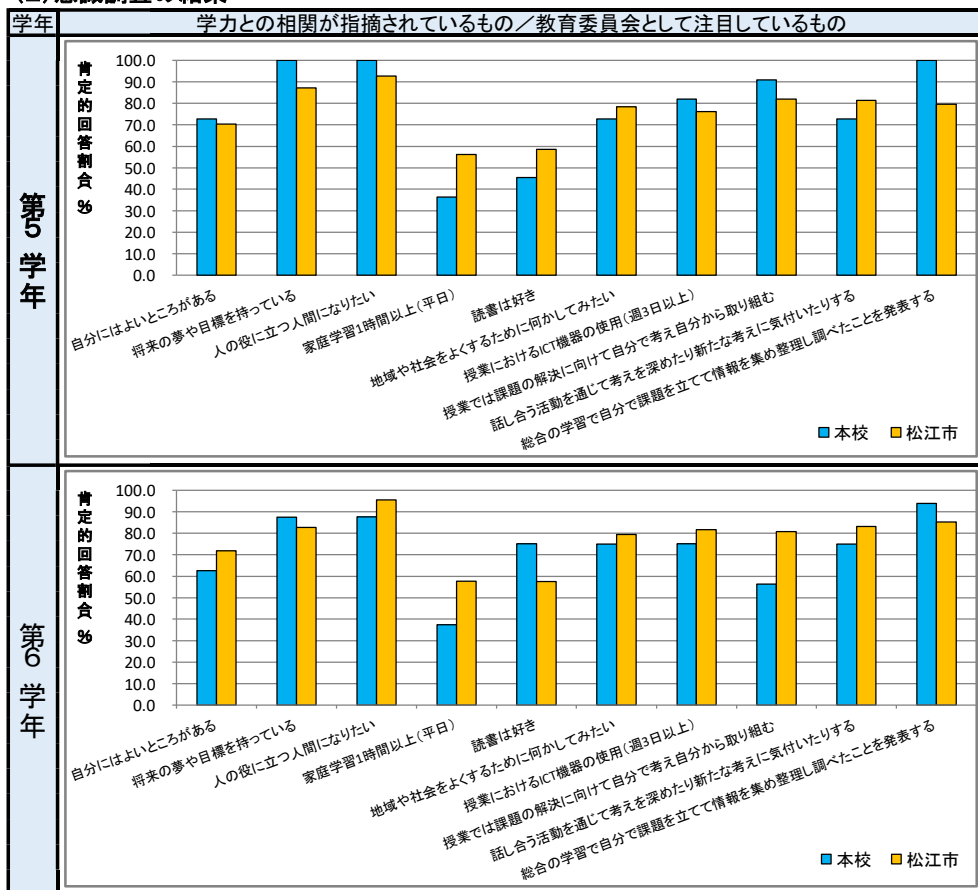


(1)教科調査の結果

学年	教科	分析(成果○/課題●)	改善策(○)
第5学年	国語	成果 ○言葉の特徴や使い方に関する事項は、全国推定値に近い値であり、書き取り会など日々の成果が表れている。 ○話すこと・聞くことは、インタビューにおいて、意図に応じて話の内容を捉えたり、質問を工夫したりすることができている。	・話す聞く言語活動の際には、話し手の考えと自分の考えを比較して共通点や相違点を整理する時間を設ける。 ・わからない言葉を明確にし、国語辞典で調べたりみんなで話し合ったりして、意味理解を深めたりする工夫をする。 ・授業の中で音読の時間を確保し、意味理解が伴った音読ができることを目指す。 ・読み取りに特化したプリントをする。
		課題 ●説明文、物語文ともに、文章を基に本文の内容を読み取ることに課題がある。読み取ることができないので、感じたことや考えを共有することも難しい。 ●筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えることが難しい。	工夫をする。
	算数	成果 ○基本的な解法が分かる。 ○計算問題ができる。	・文章問題を解く際に必要な読解力を上げるために、読書活動を推進する。 ・読み聞かせ等で、高学年には絵を見せない「ストーリーテリング」を行うことで、問題の場面を想像できる力を培う。
		課題 ●問題文を読み取り、問題の意味を理解したり、イメージしたりする力に課題がある。 ●図形問題、計算の場面等を想像する力に課題がある。	
第6学年	国語	成果 ○話し手の考えを理解し、自分の考えを持つことができる。 ○登場人物の心情を正しく選択することができる。 ○授業の中で、伝え合う学習を多く取り入れている成果が出ている。	・自分の意見とその理由を明確にして文章を書く活動を繰り返し行う。 ・文章の構造を意識した作文活動を取り入れる。
		課題 ●目的や意図に応じて、考えたことから、伝えたい点を明確して書くことが難しい。	
	算数	成果 ○ドットプロットから最頻値を読み取ったり、度数分布表を完成したりすることができる。 ○分数のかけ算・わり算の基本となる計算問題を解くことができる児童が多い。	・公式や計算のきまりを学習する際に、図や計算の過程を、自分の言葉で説明したり、ノートに書いたりする時間を多く設定し、学習の理解を深めるようにする。
		課題 ●代表値を用いて、ある児童の記録がクラスの半分より高い記録かどうかを説明することに課題がある。 ●分数の乗数を適用して、式の説明することに課題がある。	

(2)意識調査の結果



＜傾向と今後の対策、分析＞

成果○:強み/伸ばしたい点 について
課題●:弱み/改善を要する点 について

【第5学年】

- 将来の夢や目標を持っていると回答した児童が多い。
- 総合の学習で自分で課題を立てて情報を集め整理調べたことを発表すると回答した児童が多い。
- 家庭学習の時間が1時間以上の児童の割合が低い。
- 話し合う活動を通じて考えを深めたり新たな考えに気付いたりすると回答をした児童の割合が低いため、色々な学習活動において、児童が意見を交流したり、学び合ったりする場を積極的に設定する。

【第6学年】

- 読書好きの児童が多い。
- 総合の学習で自分で課題を立てて情報を集め整理調べたことを発表すると回答した児童が多い。
- 家庭学習の時間が1時間以上の児童の割合が低い。
- 授業では課題の解決に向けて自分で考え自分から取り組んでいると回答した児童が低いため、児童が主体的に授業に取り組めるような授業展開を工夫する。

【R7学力調査受検者数】

第5学年	12	名
第6学年	17	名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示